

表－１ 調査記録及び調査集計表記入表示（凡例）

管路施設	種 別	記 号
本管・取付け管	陶 管	CP
	鉄筋コンクリート管	HP
	硬質塩化ビニル管	VU
汚水ます	宅地等排水用汚水ます	●
雨水ます	道路排水用雨水ます	□
	宅地等排水用雨水ます	○
取 付 け 管	取 付 け 管	—————
	取付け管（人孔直取付け）	.....
	取付け管（閉塞等）	————— ×

表-2 管きよ及び取付管 調査判定基準【鉄筋コンクリート管等(遠心力鉄筋コンクリート含む)及び陶管】

スパン全体で評価	ランク		A	B	C
	項目				
	管の腐食		鉄筋露出状態	骨材露出状態	表面が荒れた状態
上下方向のたるみ		管きよ内径700mm未満	内径以上	内径の1/2以上	内径の1/2未満
		管きよ内径700mm以上1650mm未満	内径の1/2以上	内径の1/4以上	内径の1/4未満
		管きよ内径1650mm以上3000mm以下	内径の1/4以上	内径の1/8以上	内径の1/8未満

管一本ごとに評価	ランク		a	b	c
	項目				
管の破損及び軸方向クラック	鉄筋 コンクリート管等	欠落	軸方向のクラックで幅5mm以上	軸方向のクラックで幅2mm以上	軸方向のクラックで幅2mm未満
		軸方向のクラックで幅5mm以上			
管の円周方向クラック	陶管	欠落	軸方向のクラックが管長の1/2以上	軸方向のクラックが管長の1/2未満	—
		軸方向のクラックが管長の1/2以上			
管の円周方向クラック	鉄筋 コンクリート管等	円周方向のクラックで幅5mm以上	円周方向のクラックでその長さが円周の2/3以上	円周方向のクラックで幅2mm以上	円周方向のクラックで幅2mm未満
		円周方向のクラックでその長さが円周の2/3以上			
管の継手ズレ	陶管	鉄筋コンクリート管等:70mm以上	脱却	鉄筋コンクリート管等:70mm以上 陶管:50mm以上	鉄筋コンクリート管等:70mm未満 陶管:50mm未満
		陶管:50mm以上			
浸入水			噴き出ている	流れている	にじんている
取付け管の突出し			本管内径の1/2以上	本管内径の1/10以上	本管内径の1/10未満
油脂の付着			内径の1/2以上閉塞	内径の1/2未満閉塞	—
樹木根侵入			内径の1/2以上閉塞	内径の1/2未満閉塞	—
モルタル付着			内径の3割以上	内径の1割以上	内径の1割未満

- 注1 段差は、mm単位で測定する。また、その他の異常(木片、他の埋設物等で上記にないもの)も調査する。  
 注2 取付け管の突出し、油脂の付着、樹木根侵入、モルタル付着については、基本的に清掃等で除去できる項目とし、除去できない場合の調査判定基準とする。  
 注3 判定項目は、各自治体の地域特性を踏まえて追加してもよい。

出典:「ストックマネジメント手法を踏まえた下水道長寿命化計画策定に関する手引き(案)」に加筆  
 H25.9\_国土交通省水管理・国土保全局下水道部P75

出典:「下水道維持管理指針 実務編-2014年版-」P113  
 【以下余白】

表-3 管きよ及び取付管 調査判定基準【硬質塩化ビニル管】

スパン全体での評価	ランク		A	B	C
	項目	適用			
	上下方向のたるみ	管きよ内径800mm以下	内径以上	内径の1/2以上	内径の1/2未満

管一本ごとに評価	ランク	a	b	c
	項目			
	管の破損及び軸方向クラック	亀甲状に割れている 軸方向のクラック	—	—
	管の円周方向クラック	円周方向のクラックで幅:5mm以上	円周方向のクラックで幅:2mm以上	円周方向のクラックで幅:2mm未満
	管の継手ズレ	脱却	接合長さの1/2以上	接合長さの1/2未満
	偏平	たわみ率15%以上の偏平	たわみ率5%以上の偏平	—
	変形※ (内面に突出し)	本管内径の1/10以上内面に突出し	本管内径の1/10未満内面に突出し	—
	浸入水	噴き出ている	流れている	にじんでいる
	取付け管の突出し	本管内径の1/2以上	本管内径の1/10以上	本管内径の1/10未満
	油脂の付着	内径の1/2以上閉塞	内径の1/2未満閉塞	—
	樹木根侵入	内径の1/2以上閉塞	内径の1/2未満閉塞	—
	モルタル付着	内径の3割以上	内径の1割以上	内径の1割未満

※材料の白化が伴う変形はaランクとする。

注1 段差は、mm単位で測定する。また、その他の異常(木片、他の埋設物等で上記にないもの)も調査する。

注2 取付け管の突出し、油脂の付着、樹木根侵入、モルタル付着については、基本的に清掃等で除去できる項目とし、除去できない場合の調査判定基準とする。

注3 判定項目は、各自治体の地域特性を踏まえて追加してもよい。

出典:横田敏宏、深谷渉、末久正樹、野澤正裕、下水道管きよのストックマネジメント導入促進に関する調査、国土技術政策総合研究所資料第773号 平成24年度下水道関係調査研究年次報告書集、平成26年1月

出典:「下水道維持管理指針 実務編-2014年版」P114  
【以下余白】



表-5 管きよ調査集計表

路線No.

SEQ NO	上流マンホール番号		下流マンホール番号			管の 腐食	上下方向 のたるみ	管の 破損	管の クワック	管の 継ぎすれ	浸入水	取付管 突出し	油脂の 付着			木の根の 侵入			モルタル 付着	計	道路種別		マンホール間 延長(m)	管径 管種 (mm)	管本 数 (本)	DVD或いは写真番 号
	区画	メッシュ	番号	枝	区画								メッシュ	番号	枝	A	B	C			a	b				

出典：「下水管きよ改築時の手引き(案)平成14年5月」(公社)日本下水道協会  
 出典：「下水道管施設の点検・調査マニュアル(案)」(公社)日本下水道協会 P65  
 出典：「下水道維持管理指針 実務編」2014年版「JP102

表一6 本管用調査記録表

路線No.

SEQNO	上流マンホールNo.										下流マンホールNo.																					
	区画	メッシュ	番号	枝	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別	管種	管径	マンホール間延長	区画	メッシュ	番号	枝	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別													
	管口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	管口
継手番号 写真番号																																
内容																																
管番号 写真番号																																
内容																																
取付番号 写真番号																																
ソケット部																																
管本数 ソケット数 管不良数 DVD番号 番号 布設年度																																
占用位置 1. 国道、県道 、主要市道の車線 2. 裏通り、歩道内 、ガードレール内 3. 上記以外 該当番号																																
備考																																

異常内容	管の腐食			上下方向のたるみ			管の破壊			管のクラック			管の継手スレ			浸入水			取付管の突出し			油脂の付着			樹木根の侵入			モルタルの付着			合計 (異常箇所数合計)			合計 (異常発生管の本数合計)			備考
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C				
異常箇所																																					
継手部																																					
本管部																																					
ソケット部																																					
計																																					

注1 考察欄には、管路施設の損傷状況に加え、道路交通概況、生活環境概要、近接工事、損傷原因、損傷の進行性、損傷の新旧等について記述すること。  
 注2 計( )内の数値は、スパン全体で評価する「管の腐食」、「上下のたるみ」、「清掃等で除去可能な「樹木浸入」及び「取付管の突出し」を除いたものである。  
 出典：「下水道管路施設の点検・調査マニュアル(案)」平成25年6月(公社)日本下水道協会 P64  
 出典：「下水道維持管理指針」実務編一2014年版一JP101



表-8 マンホール用 判定基準及び調査記録表

管きよSEQNO		マンホール種別	号/寸法	道路管理者	国道/県道/市道/私道	排除方式	合流/汚水/雨水
マンホールSEQNO				占用位置	車道/歩道/その他		
酸素濃度	%		硫化水素濃度	ppm		調査日	

部位	異常項目	調査結果						備考	
		Aランク	結果	Bランク	結果	Cランク	結果		
マンホール	調整部	調整部状況	調整モルタル及びリングが破損・欠落	調整モルタル及びリングのずれ		調整モルタル及びリングのずれ・クラック			
	斜壁	腐食	鉄筋露出		骨材露出		表面の荒れ		
		破損	欠落・陥没		全体に亀裂		軽微な破損(A・B以外)		
		クラック	全体がクラック(人孔全周、幅5mm以上)		部分的にクラック(人孔半周、幅2~5mm以上)		軽微なクラック(幅2mm未満)		
		隙間・ズレ	全体が脱却		一部が脱却		わずかの隙間・ズレ		
		浸入水	噴き出ている状態		流れている状態		にじんでいる状態		
		木根侵入	内径の50%以上		内径の10~50%以上		内径の10%未満		
	直壁(管口部含む)	腐食	鉄筋露出(表面pH:1程度)		骨材露出(表面pH:3未満)		表面の荒れ(表面pH:3以上5以下)	内面表面pH <sup>※1</sup> (下流管口)	
		破損	欠落(陥没)		全体に亀裂		軽微な破損(A・B以外)		
		クラック	全体がクラック(人孔全周、幅5mm以上)		部分的にクラック(人孔半周、幅2~5mm以上)		軽微なクラック(幅2mm未満)		
		隙間・ズレ	全体が脱却		一部が脱却		わずかの隙間・ズレ		
		浸入水	噴き出ている状態		流れている状態		にじんでいる状態		
		木根侵入	内径の50%以上		内径の10~50%以上		内径の10%未満		
		タルミ	内径の3/4以上		内径の1/2~3/4		内径の1/2未満		
	足掛金具	腐食・劣化状況	欠落している		鉄筋が細くなっている		錆の発生	足掛本数 <sup>※2</sup>	
	インバート	インバート状況	インバートがない		部分的な欠損		-		
	全体	臭気	常に発生		使用ピーク中に発生		季節的に発生		
	流下状況	油脂・モルタル・土砂等の堆積状況	管径の1/3以上の付着		管径の1/3~1/10の付着		管径の1/10未満の付着		

※1: 表面pHは、硫化水素によるコンクリート腐食の可能性がある場合(圧送管吐出先部、伏越しマンホール等)で測定する(腐食ランクが判定される箇所では表面pHを測定する。判定されない箇所では測定不要)

※2: 足掛本数は、点検・調査実施時に残存している本数とする。

出典:「下水道維持管理指針 実務編-2014年版」JP149

【以下余白】



D D-03 調査実施箇所、調査結果【02.マンホール】 表-9

路線番号 (SEQNO)	(参考) 人孔番号  ※原則使 用しない (欠番あり)	調査計画 (調査予定年次)	調査内容	調査年度	調査委託No	調査委託名	調査時の 施設経過年	メッシュ番号	占用道路		マンホール種別		マンホール																備考  (調査不能な などの場合、理 由等を記載)															
									道路管理者	占用位置	人孔分類	内径(mm)	①調整部			②斜壁						③直壁						④足掛金具		⑤インバート		⑥全体		⑦流下状況		マンホール内 環境								
													腐食	破損	クラック	クラック	隙間・ズレ	浸入水	木根浸入	腐食	破損	クラック	隙間・ズレ	浸入水	木根浸入	タルミ	腐食・劣化 状況	インバート 状況		臭気	油脂・モル タル・土砂 等の堆積 状況	硫化 水素 濃度 (%)	マンホール内 環境											
													A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C		

表-10 マンホールふたの点検及び調査における判定基準<sup>1)</sup>

項目				判定ランク					
				A	B	C	D	E	
機能不足	設置基準適合性	耐荷重種類別	車道	大型車両の通行あり	T-8	T-14	T-20	—	T-25
			大型車両の通行なし	—	T-8	—	—	T-14 T-20 T-25	
		歩道	—	—	—	—	T-8 T-14 T-20 T-25		
		浮上・飛散防止機能			機能なし	—	—	—	機能あり
		転落・落下防止機能			機能なし	—	—	—	機能あり
		機能支障	浮上・飛散防止機能の作動			作動しない (錠, 蝶番の脱落, 固着, 腐食減肉が顕著)	—	—	—
	不法投棄・侵入防止機能の作動(専用工具以外利用)			容易に開く	—	—	—	正常に作動する (容易に開かない)	
	転落・落下防止機能の作動			作動しない	—	—	—	正常に作動する	
	開閉機能の作動			人力では開閉不能	勾配面の腐食により開閉困難	食込み力増大による開閉困難	—	正常に開閉可能	
	性能劣化	マンホールふた	外観(ふた及び受け枠の破損・クラック)		ある	—	—	—	なし
がたつき			がたつきがある	—	—	—	なし		
表面摩耗 (模様高さH)			車道	≦2mm	—	2~3mm	>3mmかつ 錆肌無	>3mmかつ 錆肌有	
			歩道	≦2mm	—	—	2~3mm	>3mm	
腐食(鋳出し表示の消滅)			—	見えないほど発錆	—	見えるが少し発錆	なし		
ふた・受け枠間の段差			急勾配受け構造	ふたの沈み	≧2mm	—	—	—	<2mm
				ふたの浮き	≧10mm	—	—	—	<10mm
		平受け構造・緩勾配受け構造		≧10mm	—	—	—	<10mm	
高さ調整部の損傷(欠け・充填不良・クラック)		あり	—	—	—	なし			
周辺舗装		損傷(穴, クラック)		どちらもある状態	クラックあり, かつ穴がない	どちらもないが, 受け枠と路面との間に隙間ができています	—	なし	
	ふたと周辺舗装の段差		≧20mm	—	—	—	<20mm		

出典:「下水道維持管理指針 実務編-2014年版-JP148

【以下余白】

表-11 マンホール蓋調査記録表

										コード No.	
基本情報	調査日	令和 年 月 日			天候			記録者			
	処理区分	図面名称			図面ページ		図面メッシュ				
	管路区分	<input type="checkbox"/> 幹線 <input type="checkbox"/> 枝線		下流管SEQNO	マンホールSEQNO						
	道路種別	<input type="checkbox"/> 国道 <input type="checkbox"/> 主要道 <input type="checkbox"/> 一般県道 <input type="checkbox"/> 一般市町村道 <input type="checkbox"/> 私道 <input type="checkbox"/> 借用 <input type="checkbox"/> その他									
	占有位置	<input type="checkbox"/> 車道 ( <input type="checkbox"/> わだち <input type="checkbox"/> 車線中央 <input type="checkbox"/> 路肩 <input type="checkbox"/> 植樹帯 <input type="checkbox"/> 中央分離帯) <input type="checkbox"/> 歩道 <input type="checkbox"/> その他									
	道路幅員	<input type="checkbox"/> 5.5m以上 <input type="checkbox"/> 5.5m未満			すりつけ		+・- cm				
	舗装種別	<input type="checkbox"/> AS <input type="checkbox"/> CR <input type="checkbox"/> 平板 <input type="checkbox"/> 砂利道 <input type="checkbox"/> その他									
	エリア特性	<input type="checkbox"/> バス通り <input type="checkbox"/> 重量車両通行多 <input type="checkbox"/> ビルビット付近 <input type="checkbox"/> 特殊排水 <input type="checkbox"/> その他 ※複数選択可									
	段差落差	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			副管	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
	基本情報	マンホールふたタイプ	No.		製造年	昭和〇〇年	製造メーカー				
ふた呼び径		<input type="checkbox"/> 300 <input type="checkbox"/> 400 <input type="checkbox"/> 500 <input type="checkbox"/> 600 <input type="checkbox"/> 900 <input type="checkbox"/> その他			材質		<input type="checkbox"/> FOD <input type="checkbox"/> FC <input type="checkbox"/> OR <input type="checkbox"/> 不明				
支持構造		<input type="checkbox"/> 平受け <input type="checkbox"/> 緩勾配受け <input type="checkbox"/> 急勾配受け			耐荷重種別		<input type="checkbox"/> T-25 <input type="checkbox"/> T-20 <input type="checkbox"/> T-14 <input type="checkbox"/> T-8 <input type="checkbox"/> 不明				
上部壁～GL間距離		cm		調整リング	cm × 枚、		cm × 枚				
点検・調査項目			点検・調査内容			点検・調査結果					
						A	B	C	D	E	
設置基準 適合性	耐荷重種別		歩・車道別による設置状況								
	浮上・飛散防止機能		浮上・飛散防止機能								
	転落・落下防止機能		転落・落下防止機能								
機能支障	浮上・飛散防止機能		機能の作動								
	不法投棄・侵入防止機能		専用工具以外の利用による開閉								
	転落・落下防止機能		機能の作動								
性能劣化	開閉機能		機能の作動								
	外観		クラック・欠け								
	がたつき		車両通過音・足踏みによる動き								
	表面摩耗		表面摩耗の状態 ① _____ mm ② _____ mm ③ _____ mm ④ _____ mm ⑤ _____ mm 平均 _____ mm								
	腐食		錆出表示								
	機能の作動		浮上防止		錠構造		転落防止		作動状況		
	ふた・受け枠間の段差		ふた・受け枠間の段差								
	高さ調整部の損傷		欠け・充填不良・クラック								
集計欄											
周辺舗装	周辺舗装の損傷										
	ふた・周辺舗装の段差										
集計欄											
施設	判定結果			判定	施設	考察					
マンホールふた	継続使用		異常なし		マンホール						
			改築必要								
	措置		応急措置の有無								
		措置内容									
(備考)						表面摩耗 計測点					

出典：「下水道維持管理指針 実務編-2014年版-」P145に加筆修正

【以下余白】

**D** D-03 調査実施箇所、調査結果【03.マンホール蓋】 表-12

路線番号 (SEQNO)	(参考) 人孔番号  ※原則使 用しない (欠番あり)	調査計画 (調査予定年次)	調査内容	調査年度	調査委託No	調査委託名	調査状況 (調査不能箇所)	調査時の施設経過年		メッシュ番号	占用道路		マンホール蓋種別 人孔分類 (口径) (mm)	材質	耐荷重	蓋タイプ (MH蓋表透 表より)	機能評価																																																																	
								設置年	年代		取替年	調査時 点の設 設経過 年					道路管理者	占用位置	機能不足			機能支障			浮上・飛散防止機 能			転落・落下防止機 能			閉鎖機能の作動																																																			
								設置年	年代		取替年	調査時 点の設 設経過 年							浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能	浮上・飛散防止機 能																																																			
																	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他	A	B	C	D	E	他

マンホール蓋															備考	
性能劣化															(調査不能などの場合、理由等を記載)	
マンホールふた 外観(ふた及び受け 枠の破損・ クラック)	がたつき	表面摩耗				腐食(錆出し表示の 消滅)	ふた・受け枠間の段差				高さ調整部の損傷 (欠け・充填不良・ク ラック)	周辺舗装				
		車道	歩道	消滅	急勾配受け構造 ふたの沈み		ふたの浮き	平受け構造・緩勾 配受け構造	損傷(穴、クラック)	ふたと周辺舗装の 段差						
A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他	A B C D E 他		

表-13 ます調査判定基準

部位	異常項目	判定基準			備考	
		A	B	C		
ます蓋・受け枠	蓋違い・ガタツキ	開閉できない	ガタツキがある	—	鉄蓋の場合	
	蓋の破損・劣化	蓋・受け枠にクラックや欠けがある	—	—		
	蓋の摩耗	表面がつるつるして通行に支障をきたす(車歩道部の蓋溝高さ2mm以下)	摩耗が大(車道部の蓋溝高さ:2~3mm以下)	摩耗が小(歩道部の蓋溝高さ:2~3mm以下)		
	蓋裏錆	—	多量発錆	少量発錆		
ます内部	側塊	腐食	鉄筋露出	骨材露出	表面の荒れ	
		破損	欠落・陥没	全体に亀裂	軽微な破損(a・b以外)	
		クラック	全体にクラック	部分的にクラック	軽微なクラック	
		側塊・ズレ	全体が脱却	一部が脱却	わずかの隙間・ズレ	
		浸入水	噴き出ている状態	流れている状態	にじんている状態	
		木根侵入	内寸の50%以上	内寸の10~50%以上	内寸の10%未満	
	底塊	腐食	鉄筋露出	骨材露出	表面の荒れ	
		破損	欠落・陥没	全体に亀裂	軽微な破損(a・b以外)	
		クラック	全体にクラック	部分的にクラック	軽微なクラック	
		底塊・ズレ	全体が脱却	一部が脱却	わずかの隙間・ズレ	
		浸入水	噴き出ている状態	流れている状態	にじんている状態	
		木根侵入	内寸の50%以上	内寸の10~50%以上	内寸の10%未満	
		油脂・モルタル・土砂等の堆積状況	管径の1/3以上の付着	管径の1/3~1/10の付着	管径の1/10未満の付着	
		インパット状況	インパットがない	部分的な欠損	—	
管口	取付け管側	ズレ	全体が脱却	一部が脱却	わずかの隙間・ズレ	管径: 管種:
	宅内側	ズレ	全体が脱却	一部が脱却	わずかの隙間・ズレ	管径: 管種:
ます内環境	臭気	常に発生	使用ピーク中に発生	季節的に発生		

出典:「下水道管路施設の点検・調査マニュアル(案)」(平成25年6月)(公社)日本下水道協会 P81

出典:「下水道維持管理指針 実務編-2014年版-」P158

【以下余白】

表-14 取付管及びびます用調査記録表

上流マンホール	区画	メッシュ	番号	枝
取付管SEQNO				
調査距離(m)				
管本数				
内容				
左側				
右側				
取付管種類				
取付管管径				
写真番号				
取付管SEQNO				
調査距離(m)				
管本数				
内容				
左側				
右側				
取付管種類				
取付管管径				
写真番号				
考察				

取付管 異常内容 異常箇所	管の腐食			管のたみ			管の破損			管のクラック			管の継手ずれ			腐食			破損			クラック			倒塊・ズレ			浸入水			木の根の侵入			木の根の侵入			油・オイル・土砂等の堆積			インバートの状況			取付管側			宅内側			取付管計			備考					
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C									
左側																																																									
右側																																																									
計																																																									

取付管 異常内容 異常箇所	管の腐食			管のたみ			管の破損			管のクラック			管の継手ずれ			腐食			破損			クラック			倒塊・ズレ			浸入水			木の根の侵入			木の根の侵入			油・オイル・土砂等の堆積			インバートの状況			取付管計			備考														
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C						
左側																																																												
右側																																																												
計																																																												

注: 考察欄には、管路施設の損傷状況に加え、生活環境概況、近接工事、損傷原因、損傷の進行性、損傷の新旧等について記述すること。  
 注: 管内の敷金は、スパン全体で評価する「管の腐食」、「上下方向のたみ」、「上下方向のたみ」、清掃等で除去可能な「樹木侵入」及び「取付管の突出し」を除いたものである。  
 出典: 「下水道維持管理指針 実務編 - 2014年版 -」P163

D-03 調査実施箇所、調査結果【04.取付管】 表-15

取付管番号 (SEGNO)	取付管分類	取付管延長 (m)	接続する管径x SEGNO	調査計画 (調査予定年度)	I-1. 管区間調査情報			I-2. 管路内調査による調査情報						I-3. 管区間調査結果																											
					調査内容	調査年度	調査委託No	調査委託名	調査実施年	取付管情報			接続する管径の情報			ます情報			スピン全体での評価					管一本ごとの評価																	
										管径(mm)	管種	管本数(本)	上流人孔番号 (SEGNO)	下流人孔番号 (SEGNO)	接続する管 径xASEGNO	ます種別	ます深 (m)	ます占用位 置	① 腐食(発生箇所数) 【この管は対象外】	② たるみ(発生箇所数)	③ 腐食に関するスパン 評価	④ たるみに関するスパン 評価	⑤ 破損(発生本数)	⑥ クラック(発生本数)	⑦ 管の扁平(発生 本数)	⑧ 管の脱離(発生 本数)	⑨ 取付管の突出し(発生 本数)	⑩ 満田の付着(発生本 数)	⑪ 樹木根浸入(発生本 数)	⑫ 泥土付着(発生本 数)	管一本ごとの評価【値は管のみ適用】										
11-19	11-20	11-21	11-22	11-23	11-24	11-25	11-26	11-27	11-28	11-29	11-30	11-31	11-32	11-33	11-34	11-35	11-36	11-37	11-38	11-39	11-40	11-41	11-42	11-43	11-44	11-45	11-46	11-47	11-48	11-49	11-50	11-51	11-52	11-53	11-54	11-55	11-56				





表－17 酸素及び硫化水素濃度等測定記録表

		換 気	前・後
		圧 気 工 事	有・無
測定年月	年 月 日	測 定 者	
測定場所		人 孔 番 号	
測定器名			

  

(水平)

(垂直)

測 点 1	イ	ロ	ハ
温 度 ( ° C )			
酸 素 濃 度 ( % )			
硫 化 水 素 濃 度 ( ppm )			

  

測 点 2	イ	ロ	ハ
温 度 ( ° C )			
酸 素 濃 度 ( % )			
硫 化 水 素 濃 度 ( ppm )			

  

測 点 3	イ	ロ	ハ
温 度 ( ° C )			
酸 素 濃 度 ( % )			
硫 化 水 素 濃 度 ( ppm )			

  

測 点 4	イ	ロ	ハ
温 度 ( ° C )			
酸 素 濃 度 ( % )			
硫 化 水 素 濃 度 ( ppm )			

  

(措 置)

(注) 労働安全衛生法 酸素欠乏症等防止規則 第2章 一般の防止措置 (第2条) に基づき、記録は3年間保管する事。